

社会人に欠かせないIT力を証明する国家試験 「ITパスポート試験」

ビジネスにITを活用する社会人のための「国家試験」

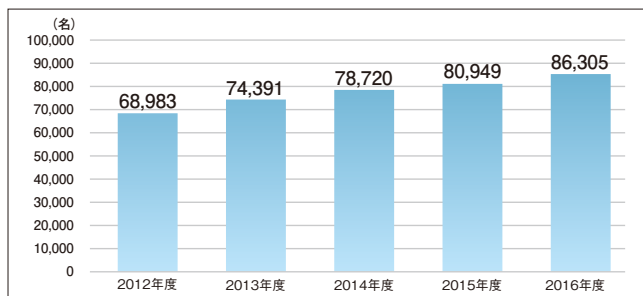
ITは多くのビジネスで活用されており企業活動においても非常に重要な役割を担っています。グローバル化やITの高度化にともない、企業は「英語力」とともに「IT力」を持った人財を強く求めています。

そこで、社会人・企業人に必要とされる基礎的な知識を身につけ、IT力を証明する国家試験として経済産業省が創設したのが「ITパスポート試験(以下、iパス)」です。

iパスでは、テクニカルな知識にとどまらず、企業活動、経営戦略、財務や法務、プロジェクトマネジメントなど、ITを活用するうえで前提となる多岐にわたる知識がバランス良く出題されるため、社会人から学生まで幅広い層から支持され

ています。2009年の試験開始以来、応募者数は年々増加しており累計応募者数は77万7,920名^{※1}にものぼっています。

※1 2016年度現在



ITパスポート試験応募者数推移

組織のIT力向上とコンプライアンス強化にも貢献

ビジネスにITを活用するためには、情報システム部門に限らず、情報システムを利用する側の社員一人ひとりが、ITを理解し、IT力を養うことも必要です。iパスを通じて習得した基礎知識を生かすことで、ITを積極的に活用した業務効率化が図れるようになります。また、ITを取り入れた新規ビジネスやイノベーションの提案ができる人財育成も可能となります。営業職であれば、お客さまに製品やサービスをわかりや

すく説明でき、ニーズをより深く把握できることで、営業力の強化にもつながります。さらに、機密情報や個人情報の漏えいを未然に防止する知識を身につけることができ、コンプライアンス強化による企業価値の向上にも貢献します。

こうしたメリットから、社員研修や新入社員研修にiパスを活用する企業が急速に増えており、企業全体のIT力向上に欠かせないライセンスとなりつつあります。

日立が支えるCBT方式の試験システム

iパスでは2011年から国家試験初の試みとなるCBT^{※2}方式が導入されています。CBT方式とは、データベース化した試験問題をインターネット経由で試験会場へ配信し、コンピュータ上で出題、解答、採点を行うもので、試験終了と同時に結果を確認できるのが特長です。受験場所や開催日時の自由度が増すため、受験者の利便性が向上します。

iパスを実施する独立行政法人情報処理推進機構から、日立はCBT方式の試験システムを受託し、開発・運用までを担っています。受験者の申し込み受け付けから受験票発行、iパスの実施、採点、結果通知など、高信頼のクラウド基盤を活用したシステムの安定稼働により、iパスの運営をトータルに支援しています。

ビジネスにITを活用する、すべての社会人のための

「パスポート」となるiパスをこれからも日立のシステムが支援していきます。

※2 Computer Based Testing



試験会場イメージ

日立はプロメトリック社と協力しiパス試験会場の運営も行っています。(写真提供:プロメトリック社)

お問い合わせ先

(株)日立製作所 公共システム営業統括本部 カスタマ・リレーションズセンター
<http://www.hitachi.co.jp/pchannel-inq/>

情報提供サイト

http://www.hitachi.co.jp/Div/jkk/kyoiku/solution_kyoiku.html